

デザイン方法論に関するワークショップ

2007年6月29日(土)、30日(日)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「デザイン方法論に関するワークショップ」が開催されました。はじめに、松岡が本ワークショップの趣旨を述べ、デザイン科学の枠組みにおけるデザイン方法論の位置づけ、デザインの上流と下流におけるデザイン方法論の特徴比較に関する講演を行いました。つぎに、講師としてお招きしたカーネギーメロン大学の石崎豪准教授に、経験やコンテキストを考慮した文章の特徴解析法を、視覚デザインにおけるデザイン言語の体系化において活用する新しい方法論に関するご講演を行っていただくとともに、デザインに関わる研究・教育者（基礎デザイン学会・群馬大・慶應大・多摩美大・千葉工大・東京デザイン専門学校・長岡造形大・武蔵野美大・和光大）、企業関係者（ジャストシステム・東芝・富士通・マツダ・）、および学生等を含む約40名の方々と交えた活発なディスカッションが行われました。本ワークショップにおきましては、デザインにおいて用いられる知識に関する議論や、情報デザインのように実体を伴わないデザインの扱いに関する議論が展開され、デザイン科学の枠組みに基づくデザイン方法論のための有益なご意見を多数いただくことができました。ご講演をいただきました石崎先生、ならびに貴重なご意見をいただきました参加者の皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



石崎豪先生による講演の様子



会場の様子